

## 報 告

### 第九十二回經濟研究会報告

六月一日(火)於 寧靜館會議室

發表者 古米淑郎教授

司會者 黒松 巖教授

テーマ「西陣織物業と人手不足」

(出席者) 小松、宗藤、松井、相見、岩根、岡、西川(良)、  
辻、穂原、山下、西川(宏)、粕、藤村、森、小森、  
坂本、渋谷

近年におけるわが國産業の急速な成長にともない、労働力の需給関係が切迫しつつあるなかにあつて、西陣織物業は新規雇用労働力の獲得に苦しみ、それに起因する賃金水準の上昇で企業採算が圧迫され、一般に雇用労働力の管理に困難を生じている。

しかし、そうした求人難をもつて、直ちに西陣織物業の人手不足を断定することはできない。なぜなら、西陣織物業の雇用労働力は、西陣地区の内外を合わせた西陣織物業労働力のわずかに三十九パーセントをしめるにすぎず、新規労働力はそのまた一部にすぎないからである。そのうえ、出機制度の積極的利用により、賃織労働力が著しく増加し、それによって西陣織物業が近年めざましい成長をとげたことを見逃してはならない。

そこで、従業者数と機台数との関連、および従業者数と生産量ないし生産額との関連をたどつてみると、年間生産量の六十六パーセントを西陣地区外の出機労働力に依存する着尺部門をのぞき、帯地部門でも新興織物業部門でも、単位生産量あたりの従業者数の増加傾向があまりにみられ、また主要な製品部門でいずれも織機一台あたりの従業者数の増加を示しており、全体としても主要部門別でも、従業者の絶対数が不足しているとは思えない。

雇用労働力の入手難をかこちながらも、従業者数の不足がみられないのは、西陣織物業労働力の五十四パーセントが西陣地区の内外にわたる出機従業者であり、その賃織労働力の利用によって、労働量の伸縮を容易に行なうからである。しかも、こうした賃織労働の積極的利用は、雇用労働力の不足を補うためではなく、資本蓄積のおくれた西陣織物業としては、固定資本の投入をほとんど必要とせず、また労働力の直接的管理にともなう費用とわずらわしさを回避する手段を提供していることが注目されねばならない。

このような労働力構成の特異性のために、雇用労働力の管理制度と福利厚生施設の著しい立ち遅れをきたし、ひいては雇用労働力の入手難と老年化の進行を結果しているのである。この傾向が今後も続けば、雇用労働力の全面的不足が遠からずあらわれるであろう。西陣地区外の賃織労働の利用はここ当分の間なお拡張の余地があるが、それとても丹後織物業(賃織)が独立する可能性をほらんでいるうえに、労働力の本格的な不足時代がせまら

るにつれて、縮小せざるをえなくなろう。それに代えて、労働関係の近代化を推進することにより、雇用労働力への依存度を高めるとともに、生産技術と労働生産性の向上を早急に促進する必要がある。